

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月15日現在

機関番号：43401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22730646

研究課題名（和文） 視線計測による保育者の「見守り」の可視化とその教育的利用

研究課題名（英文） Gaze-pattern visualization of teachers in early childhood education and care by eye tracking and its application for teacher training

研究代表者

乙部 貴幸（OTOBE TAKAYUKI）

仁愛女子短期大学幼児教育学科・准教授

研究者番号：70513844

研究成果の概要（和文）：視線検出器を用いて幼稚園教諭・保育士の視線を計測した。学生との比較において、幼稚園教諭・保育士の視線移動はより頻繁であり、また全ての子どもに目を向ける、より危険な遊具などの場所に注意する傾向が見られた。これらの結果は保育者養成において科学的な基盤の1つを提供するものである。

研究成果の概要（英文）：Gaze of teachers in early childhood education and care was measured by an eye-tracking paradigm. Compared to students, teachers' eye movements were more frequent than students. Moreover, teachers tended to look all children in the presented movie and implicitly dangerous area. The results provide a scientific basis for teacher training of early childhood education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教育学

キーワード：視線計測、見守り、保育者、実習指導

## 1. 研究開始当初の背景

幼稚園教育・保育所保育の現場において、実際の保育の営みを支えるものの1つに「見守り」がある。これは、主に子どもの安全の確保と子どもの発達上のニーズに合わせたかわりを目的とした「目配り」に支えられている。しかし「どのように目配りをすればよいか」は抽象的に論じられることが多く、保育者の養成課程で学ぶ学生にとって具体的なイメージを持つことは難しい。現場の保育者の目配りは「現場経験」に基づいているからである。この問題に対しては、現職者が現

場においてどのような目配りをしているのかを「可視化」し、その目配りがどのような観点に基づいて行われているかを明らかにすることで、現場の経験を従来よりも効果的に学生に伝達できる。

この「目配り」を定量的に計測する強力なツールとして、視線検出器がある。「目は口ほどにものを言う」という諺があるように、「いつ、何を、どのように見るか」はその人の認知過程を反映するものとして扱うことができる。この技術は、保育者の現場における視線の動き、すなわち目配りに応用できる

が、そのような試みはほとんど行われてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、現職保育者と学生の視線を視線検出器により測定・比較し、保育者特有の見守りを具体的な視線移動パターンとして可視化することを主たる目的として行った。

## 3. 研究の方法

本研究では、まず現職の保育者の視線を視線検出器により計測することで、その視線を定量的に可視化した。同時に、現職者が見守りに関して重視している点について質問紙により調査した。両者の結果により、現職者が普段から意識して見ようとしている点はあるようなものか、そして現職者は実際にそれによって視線を動かしているかを明らかにしようとした。

## 4. 研究成果

視線検出器によって、学生と5年以上の現場経験のある現職保育者の視線を計測し、比較したところ、まず現職保育者は学生に比してより多く視線を動かしていた(図1)。

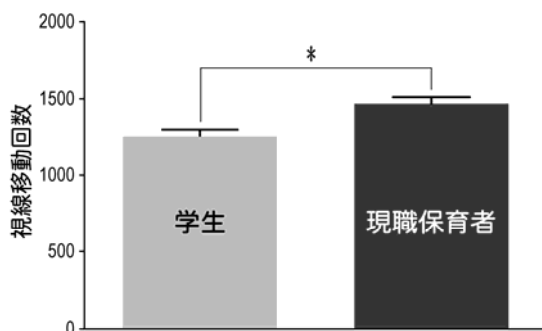


図1 学生と保育者の平均視線移動回数

次に、実験参加者がどのような観点から保育場面を見ていたかを視線マップにしたところ、現職保育者は、(1)全ての子どもを見ようとし(図2)、(2)遊具の高い位置にいる子どもを特に注意し、(3)映像内の保育者の動きにも注目する傾向がみられた。



図2 昼食場面における視線マップ。左は学生、右は現職者。赤が最も多く見ていることを表す。学生は奥の方の子どもたちには目が届いていないことが分かる。

また、現職者は質問紙においても上記の項目に類することを数多く記述していたが、学生にはほとんどみられなかった。

本研究の結果から、一定以上の経験のある現職保育者は、学生に比べて、保育場面において視線移動が頻繁であり、また全ての子どもの様子に目を向けようとするなどの傾向があることが示された。これは自動車運転時に初心者より熟練者の方がより広い視野で視覚探索するという報告(e.g. Crundall et al., 1999)と類似しており、保育・幼児教育の現場においても、園児の事故を可能な限り未然に防止するなど様々な観点からの視覚的注意に対して、現場経験が一定の影響をもつと考えられる。本研究の結果は今後の保育および保育者養成に実証的な基盤を提供することが期待される。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

乙部貴幸「視線研究の保育への応用」  
日本赤ちゃん学会第11回学術集会ラウンドテーブル「『視線』から近づく赤ちゃん学」  
2011年5月 中部学院大学

乙部貴幸、松川恵子「保育場面における目配りの研究：視線追跡装置を用いた定量化の試み」  
日本保育学会第64回大会口頭発表  
2011年5月 玉川大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

乙部 貴幸 (OTOBE TAKAYUKI)

仁愛女子短期大学幼児教育学科・准教授

研究者番号：70513844

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：